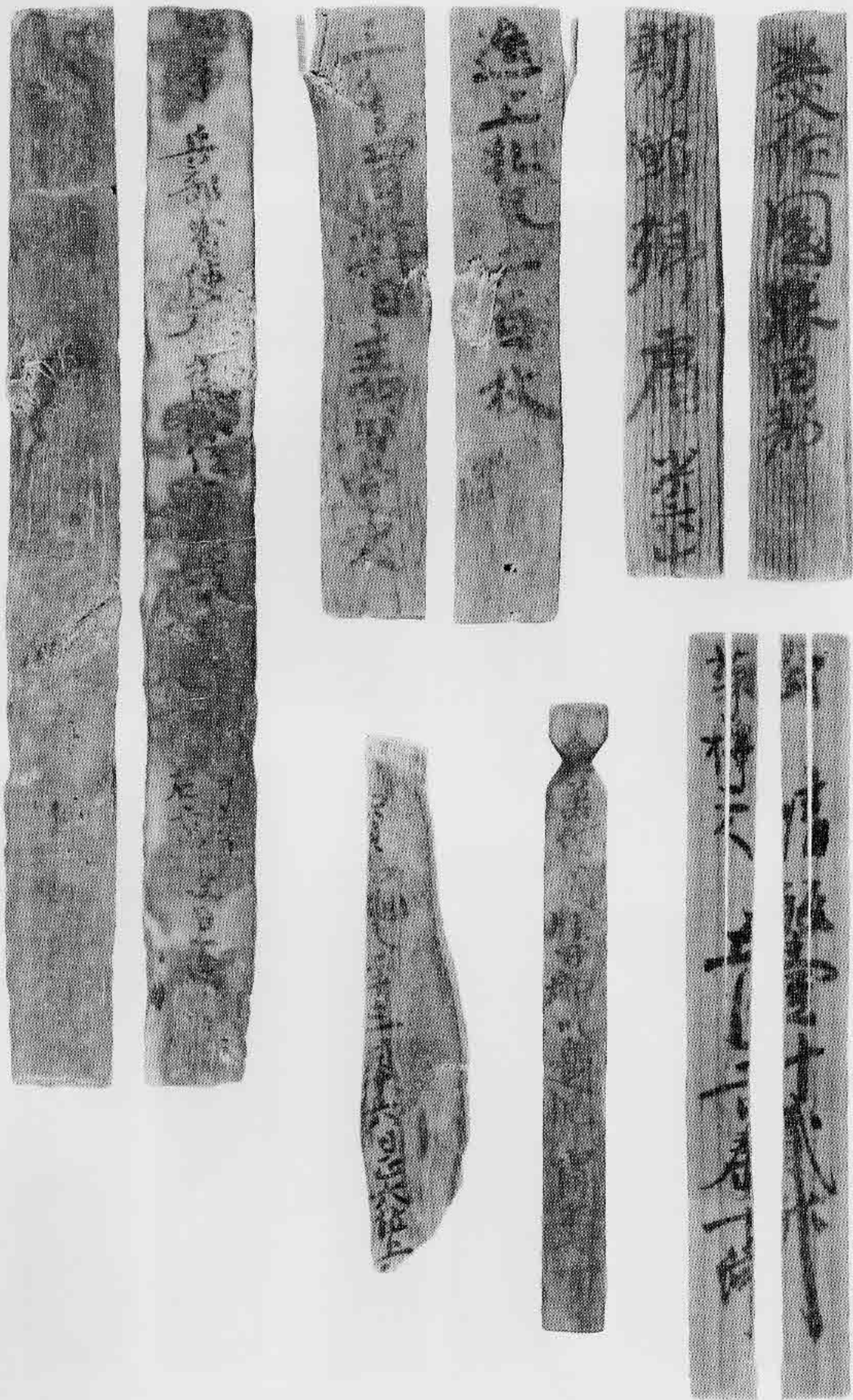


一九八五年六月

平城宮発掘調査出土木簡概報(六)

奈良国立文化財研究所



第155、157次調査出土木簡 (2/3)

この概報には、さきに公刊した『平城宮発掘調査出土木簡概報十七』（一九八四年六月）以後、平城宮跡および平城京跡から出土した木簡のうち主要なものを収録する。

以下、木簡の各地点ごとの出土状況を述べ、釈文をかかげる。

一、木簡出土の地点と状況

第一五五次調査（6A A I—D区）

一九八四年三月～七月

調査区は、平城宮の東南隅にあたり、南面大垣の東端部から西へ約一三〇mの間に位置する。調査面積は約三一〇〇㎡。この場所は一九六五～六六年におこなわれた第三二次調査地区の西と北、第三二次補足調査地区の西と南に接するところである。特に第三二次補足調査では、南面大垣の北を東へ流れる東西溝（SD四一〇〇）から式部省関係のものを中心に木簡が一万三千点余出土している（『平城宮発掘調査出土木簡概報四』）が、今回出土の木簡にも同じような傾向がみられる。検出した主な遺構は、南面大垣・二条大路・左京三条一坊の北の築地塀・東西溝三条・南北

溝五条などである。木簡は東流する二条の東西溝（SD四一〇〇・一二五〇）と南流する二条の南北溝（SD一一六四〇・三四一〇）から、合計一五〇〇点（うち削屑一二四七点）が出土した。

東西溝SD四一〇〇 SD四一〇〇は第三二次補足調査の西に接して約六〇mにわたって検出した。AとCの三期に区分できる。A期の溝は大垣から北へ中心で五・三mの所を流れ、B・C期は約一m南へ移る。幅は一～二m、深さは〇・五m前後である。このうち最下層のA期の溝は出土遺物からみて、発掘区の中央部でまじわるSD一一六四〇と同時に併存していたと判断される。木簡六九点はすべてA期の堆積土から出土した。なおB期の堆積土からは奈良時代中期以降の蹄脚硯が出土している。六九点のうち一点は溝の調査区中央付近からの出土。他の六八点は調査区西端付近で、北からそそぐ南北溝（SD一一六二〇）との合流点からであり、南北溝から流れ込んだ可能性が高い。六九点中、削屑は四三点である。

二条大路北側溝SD一二五〇 SD一二五〇は南面大垣の南約一二mのところを西から東へ流れる溝であり、二条大路（SF九四四〇）の北側溝にあたる。幅四m、深さ〇・

九mの素掘りの溝である。約九〇mにわたって検出したが、木簡は二層にわかれる堆積土の下層から溝の各所に点在する状態で出土した。点数は一〇〇点、うち削屑は五一点である。

南北溝SD一一六四〇 SD一一六四〇は前記二条の東西溝を結んで、南面大垣の東端より五〇m西を南流する溝で、今回新たに確認したものである。幅約三m、深さ約〇・八mで、東西両岸に護岸の杭をうつ。溝の堆積土は一層である。木簡は大垣の下、およびその南約五mのたまりからまとまって出土し、合計一一九八点にのぼる。うち削屑が一〇五〇点ある。年紀のある木簡がいくつか出土しているが、それらは靈龜三年と神龜五年の間におさまり、他の木簡もほぼこの時期のものと考えられ、注目される。SD一一六四〇と南面大垣との交点の土層をみると、下からSD一一六四〇の堆積土・埋土・南面大垣の築地土・築地崩壊土となっており、SD一一六四〇にともなう暗渠の痕跡は認められなかった。すなわち、SD一一六四〇が大垣の下を通過して抜けていたという痕跡がない。したがって、この溝は神龜年間以降に埋め立てられ、すくなくともこの部分は築地が神龜年間以前には存在しなかった可能性が高い。

なお、南面大垣の造営、改修などの過程については、今後の検討課題である。

南北溝SD三四一〇 SD三四一〇は『平城宮木簡三』でも報告されているように、東面大垣の内側を南流しSD一二五〇に注ぐ溝で、今回の調査区東端で約六m分検出した。この部分では幅が九mにひろがっており、大型の石が散乱している。溝の堆積土は二層に大別され、木簡はほとんどが上層の下辺からの出土である。同じ堆積土からは「富寿神宝」や糸切底の壺等が出土しており、九世紀前半頃の堆積と考えられる。出土木簡は一〇六点、うち削屑が七七点である。

第一五七次調査（6ABY—B・6ABL—D区）

一九八四年七月—一月

調査区は第一次朝堂院の南方、朱雀門の東で南面大垣の北に接する地区である。東西二区にわかれるが、合わせて二七五〇㎡の調査面積である。検出した主な遺構は掘立柱塀三条、掘立柱建物二棟、南北溝二条、土壙一基などである。これらのうち南北溝二条（SD三七六五とSD三七一五）は、これまでの調査の結果、第一次朝堂院と第二次朝堂院

の間を南流する基幹排水路であることが確認されているもので、今回はその最下流の発掘といえる。

木簡はそのほとんどがSD三七一五からの出土で、一四四点あり、他に調査区中央付近の土壇から削屑が二点出土したのを含めて合計一四六点（うち削屑八四点）である。

南北溝SD三七一五 SD三七一五は霊亀年間から平安時代初期まで存続する溝で、この調査区での堆積土は大きく三層にわかれるが、遺物からは中・下層間に大きな時期差はみとめられない。上層は宮廃絶後の流路と考えられる。幅は下層では二〜三mであるが、中層は六〜七mにひろがる。木簡はこの溝の中・下層から出土している。年紀のあるものは「天平宝字四年」と「宝亀八年」の二点であり、同時に伴出した土師器のほとんどが平城宮土器V（宝亀年間を中心とする年代）であることを合せ考えると、他の木簡の多くもこれに近い年代である可能性が高い。また伴出遺物のなかでは後に掲げた墨書土器が注目される。

なお、これまでにSD三七一五から出土した木簡については『平城宮発掘調査出土木簡概報』五・十一・十二・十三・十五・十六に掲載されている。

第一六〇次調査（6AHL—Q・R・S区）

左京八条一坊三・六坪）

一九八四年八月〜一〇月

調査は工場建設に伴なう事前調査で、古墳時代、奈良時代および中世の遺構を検出した。奈良時代の主な遺構としては、八条条間路と八条一坊三・六坪の坪境小路東側溝・掘立柱建物四七棟・池状遺構一・井戸一基等である。そのうち六坪内にあり奈良時代後半に属する、桁行六間以上、梁間二間の南庇付東西棟建物（SB三一九〇）の身舎西南隅の柱抜取穴から出土した曲物の漆容器には、墨書のある紙片が付着、残存していた。

また、三坪内で検出した池状遺構（SG三五〇〇）からの八八点をはじめとして、六坪内の土壇（SK三三〇〇）、井戸（SE三二六〇）、三・六坪の坪境小路東側溝（SD三三三三）等から一〇五点の墨書土器が出土した。このうちSG三五〇〇の堆積土は三層に大別でき、下層からは奈良時代前半、中層からは中頃から後半、上層からは後半の土器と瓦がそれぞれ出土した。またSK三三〇〇からは奈良時代の前半から中頃の土器が多量に出土した。

中世の遺構としては、坪境小路上を南流する河川（SD

三三四〇)があり、現流路につけかえられる以前の室町時代の佐保川の本流と推定されるが、三層に大別される堆積土の中層最上部から木製板五輪卒塔婆一点が出土した。

※なおこのほか、薬師寺回廊の調査(一九八五年一月〜四月)では、回廊西南隅の西側にある池から近世の木簡が一点出土した。

二、凡 例

(一) 釈文は出土遺構ごとに掲げ、同一遺構の中では、内容分類によって、文書、付札、その他の順に配列するのを原則とした。

(二) 最上段に出土地点を示す小地区名(アルファベット・数字)、次の段に現在遺存の形態を示す型式番号を記した。型式番号は次の通りである。但し本研究所では型式番号は四桁の数字を用いるが、本概報では時代を示す千の位を省き、下三桁の数字で表わした。なお端とは、木簡を木目方向においた時の上下両端をいう。

6011型式 長方形の材のもの。

6015型式 長方形の材の側面に孔を穿ったもの。

6019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6011・6032・6051型式のいずれかと推定される。

6021型式 小形矩形のもの。

6022型式 小形矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいれたもの。方頭・圭頭など種々の作り方がある。

6032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損、腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6031・6032・6033型式のいずれかと推定される。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原

形は6033・6051型式のいずれかと推定される。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

6065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

6081型式 折損・割截・腐蝕その他によって原形の判明しないもの。

6091型式 削屑。

(三) 釈文に加えた符号はつぎの通りである。

く く 抹消した字画のあきらかな場合に限り原字の左傍に付した。

■ 抹消により判読困難なもの。

□ □ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□ 欠損文字のうち字数が推定できるもの。

□ □ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

□ □ 記載内容からみて上または下に少くとも一字以上の文字を推定したもの。

┌ 異筆、追筆。

└ 合点。

・ 木簡の表裏に文字のある場合、その区別を示す。

カ 編集が加えた注で疑問の残るもの。

ママ 文字に疑問はないが意味の通じ難いもの。

┌ ┐ 校訂に関する注のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

() 右以外の校訂注および説明注。

(四) 釈文下段のアラビア数字は、木簡の長さ・幅・厚さを示す(単位はミリメートル)。欠損・二次的整形の場合、現存部分の法量を括弧つきで示した。但し軸木口については長さ・直径を記し、欠損している時は、現存部分の長弦を括弧つきで示した。なお長さ・幅は木簡の字の方向による。

(五) 釈文の出土地点の上に付した*印は、口絵図版に写真を掲げた木簡を示す。*は図版一に、*は図版二に掲げた。

二条大路北側溝SD二五〇

* DE 87 011 内参入舍人、阿曇千嶋、丹比足角

大伴廣國、品遲國前、君子依、海

DE 67 091 中上左京東市正

DE 67 032 二番

二番

DE 82 032 田口朝臣



266 (19) 5

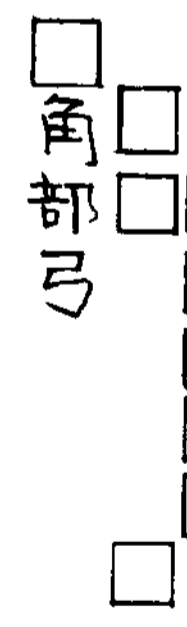
DE 83 091

宇治連稻

DE 87 091 輕之造法末呂年廿四高五尺六戸主輕之造万呂

道守臣装麻呂年廿七

DE 85 081



(178) (40) 9

DE 83 091 秦人

DE 78 033 播磨國揖保郡林郷

林里鴨

135 19 5

DE 84 033 美作國勝田郡飯正

米六斗

174 26 3

** DE 85 011 美作國勝田郡

新野郷庸米六斗

141 25 6

** DE 84 032 美作國勝田郡川邊郷庸米六斗 156
15
4

DH 67 061 出羽國郡司考

(軸木口)

295
16

DE 86 039 郷江里

人庸六斗

(74)
14
5

DG 67

061

年十月

(軸木口)

(248)
(11)

DE 83 051 栗栖郷

152
20
5

* DI 67

032

多禊嶋考六卷
北六卷

DE 67 081 壹拾貳拾參拾肆拾伍拾六

柒拾捌拾玖拾壹拾貳拾

(244)
(14)
3

* DI 67

032

三番

115
24
7

DE 83 091 牒字

* DH 67

032

神龜二年諸司考
工長文

132
24
10

DE 85 081 月十日

(171)
(25)
4

DH 67

091

圖書

南北溝SD一六四〇

DH 67

091

式部省史

* DI 67 061 肥後國第三益城軍團養老七年兵士歷名帳

肥後國第三益城軍團養老七年兵士歷名帳

(軸木口)

320
22

| | | | | | | | | |
|--------------|---------------------------------------|----------|----------------------------|----------|----------|----------|--------------------------|-------------------------|
| DI 67 | DH 67 | DH 67 | DH 67 | DH 67 | DH 67 | DH 67 | DH 67 | DH 67 |
| 091 | 091 | 091 | 091 | 091 | 091 | 091 | 091 | 091 |
| □ □ 中上 | □ ^上 □ _中 等 | 四考例經二 | □ ^郡 人 六考日 | 六考 | 八考日 □ | 八考日 | □ 百七十三 一十中等 一下等 | □ ^目 二百九十八 |

| | | | | | | | | | |
|----------|---|-------------------|----------|-----------------------|--|---|-----------------------|----------|-----|
| DH 67 | DH 67 | DI 67 | DH 67 | DH 67 | DH 67 | DH 67 | DH 67 | DI 67 | |
| 091 | 091 | 065 | 091 | 081 | 039 | 091 | 091 | 091 | |
| 大伴連 | □ ^藤 原 □ ^{朝臣} □ | □ □ 錢十文 | 一資錢 | □ 錢五百文 神龜二年九月八日 | 五 □ ^{百文} □ _{神龜四年料} 輸神龜□ | 位 □ ^三 □ _{茨田宿祢多比} □ | 散位續 □ ^勞 | 不考 | 二中中 |
| | | 157 (25) 10 | | 240 (P) 4 | (111) 26 3 | | | | |

| | | | | | | | | |
|----------------|----------|-----------------------|----------|-----------|----------------|----------|------------------|-----------|
| DH 67 | DH 67 | DF 67 | DH 67 | DH 67 | DI 67 | DH 67 | DI 67 | DH 67 |
| 091 | 091 | 091 | 091 | 091 | 091 | 081 | 091 | 091 |
| □肥 □後 □國 | 出雲 | □天 麻呂 | 河内國古市郡□人 | □任 下桑原 | □日 □下 □部 | 太德連 □ | □朝 □臣 大神朝臣 | □无 位大伴 |
| | | □國 □郡 □人 六考曰 | | | | | | |

(77)
(8)
3

| | | | | | |
|----------|--|------------------------------------|--------------------------|-------------------------|---------------------|
| DH 67 | DH 67 | DH 67 | DI 67 | DH 67 | DI 67 |
| 091 | 091 | 033 | 011 | 091 | 081 |
| 神龜五年正 | □ _[川] □ _[野] □ _[郡] □ _[加] | 備中國手田郡大飯鄉新□里庸米 四斗五升田中里一斗五升右二村一俵 | 三年四月十六日主典田邊史。 進上北瓦二百枚 | □ _[豐] 正五十戶□□ | □ _[防] 安藝 |
| | | 219 23 6 | 153 27 3 | 中上一人 | |
| | | | (粟孔) | (175) (19) 4 | |

DH 67

091

□
逃

DI 67

081

食□合肆拾肆人

□□

DI 67

051

久患秋干十

DH 67

081

□
前落草蒜菲葱

DH 67

081

諸□家

DE 67

011

□^輸納至如人
□宜審計□
□^{拾柴}日□
□京寺京

(130)
(24)
6

147
17
2

(123)
(14)
5

(30)
(36)
7

(73)
(44)
6

DI 52

081

□火
□火
□火
□火
□火
□火

□
□
□^寫□
□

DI 51

081

月廿四日建部□^廣

DI 51

081

□少属□□

DI 52

011

九月□日□□□^廿
□曹司

DI 51

019

残飯一斗

DI 52

081

應用間食参竹□
□依□□□□

不□
□

(142)
16
2

(84)
(11)
2

(47)
(6)
3

(168)
24
2

(92)
19
3

190
(22)
4

南北溝SD三四一〇

南北溝SD三七二五

* DD 34 081

河内國
從六位上三島
從七上美努連
從七上四佐
從八上
從八上
秦心村田次
波
可
錦
高橋金
源部

今木連 (39)
黃文連 (154)
出雲
飽浪連
鶴祢疑
六人部連
六人又連
尚向調
秦心村船
2

DJ 35 DL 34 061
天平寶字四年
史
考狀 (軸木口)

DJ 35 081
部連

右依少録勤
(148)
(14)
4

DE 34 081
從六位下尺度忌寸人

守麻呂

* DI 34 081
尺伍寸
内舍人佐伯老 (白墨)

十二日宿
位子日奉乙麻呂

橘戸東人 (栗丸)
196
40
7

DJ 34 081
橘戸東人

守王
内王
(94)
18
2

DH 33 081
守王
内王
(40)
20
3

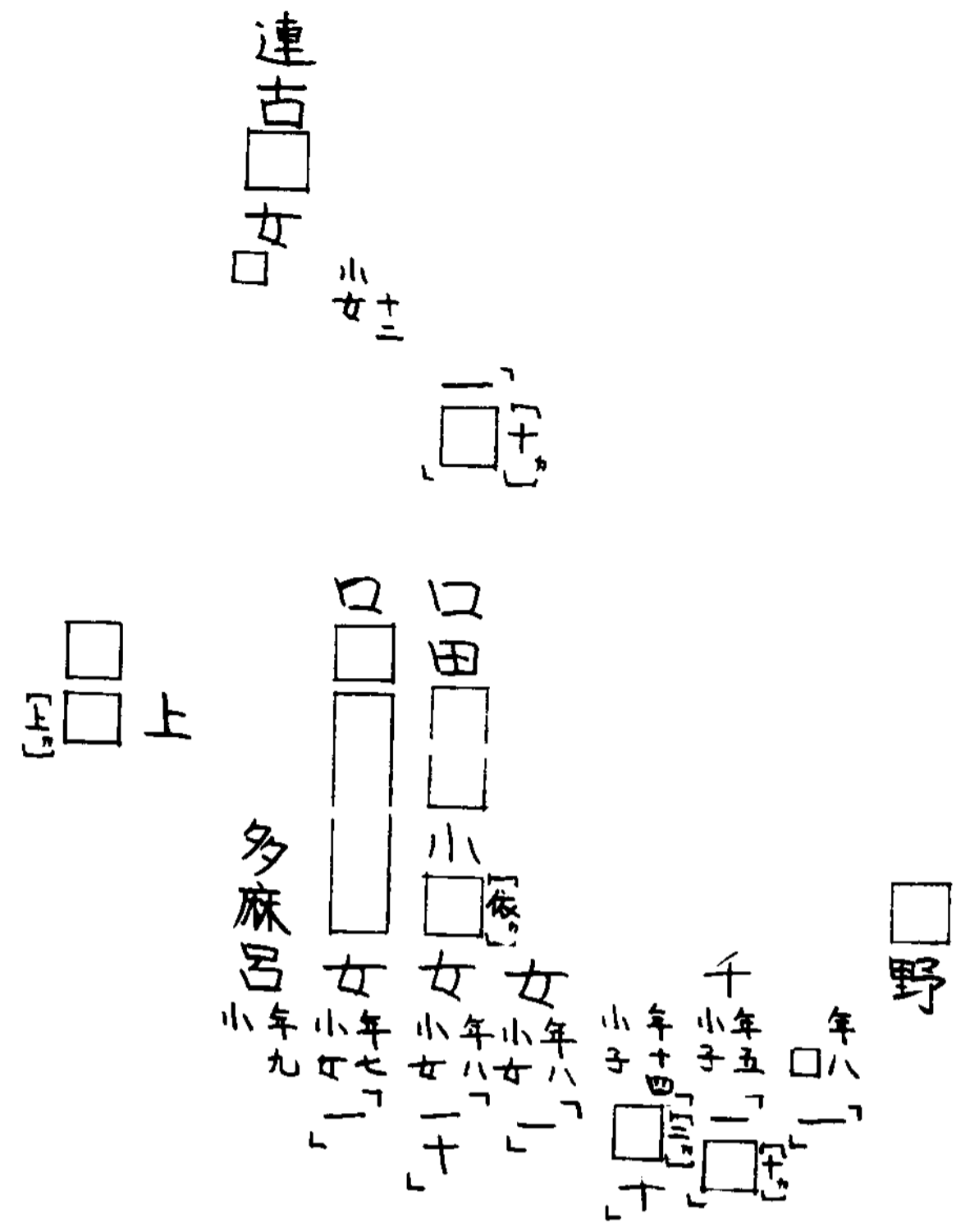
** DG 34 081
寶龜八年三月十六日正六位上

DF 34 019
外兵庫
勅旨省

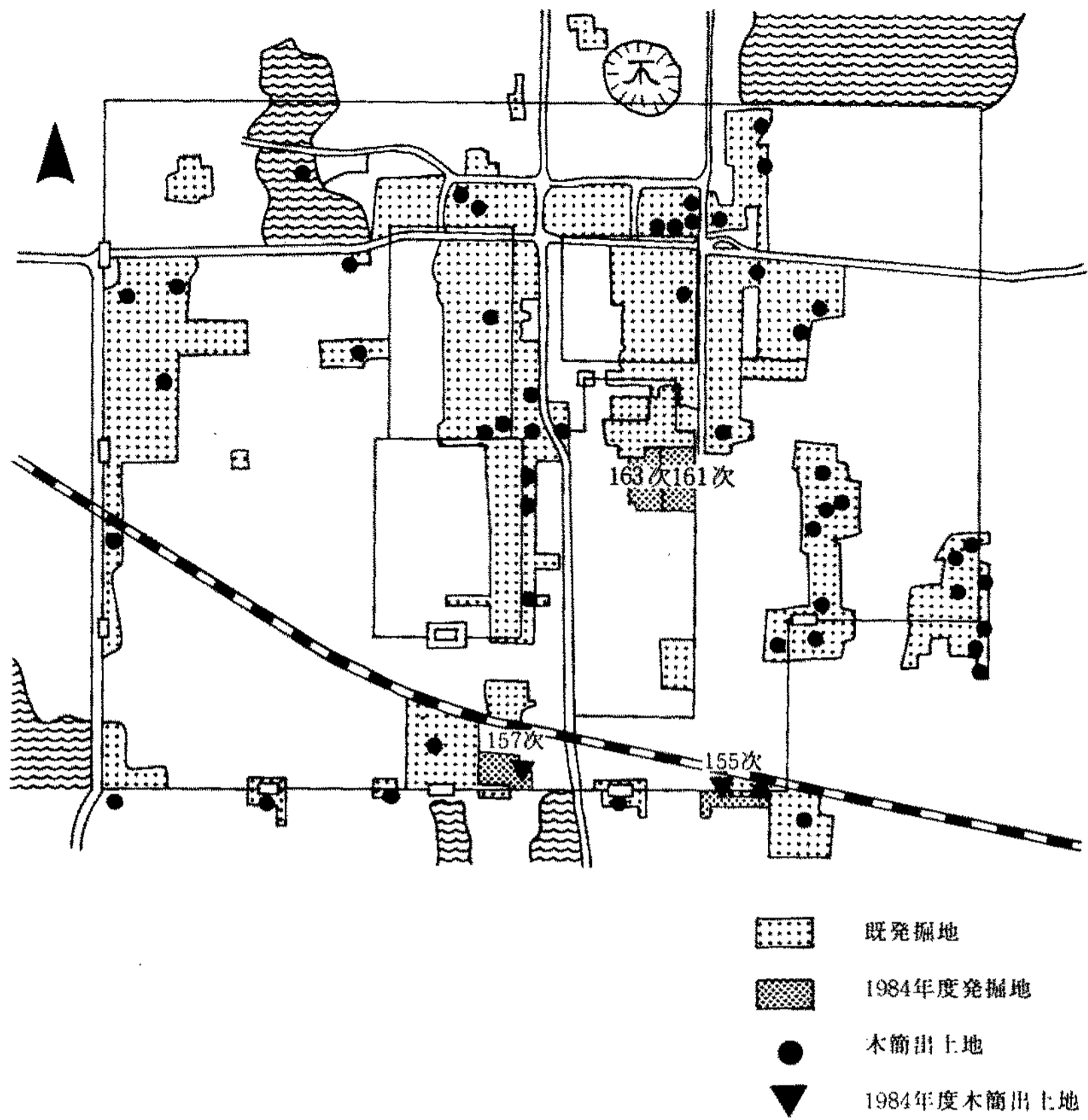
廣人
(47)
25
3

| | |
|----------------------|------------------------------|
| 第一五七次調査 南北溝SD三七一五 | 内木工所 充足棒 (二点) 工所 足棒 |
|----------------------|------------------------------|

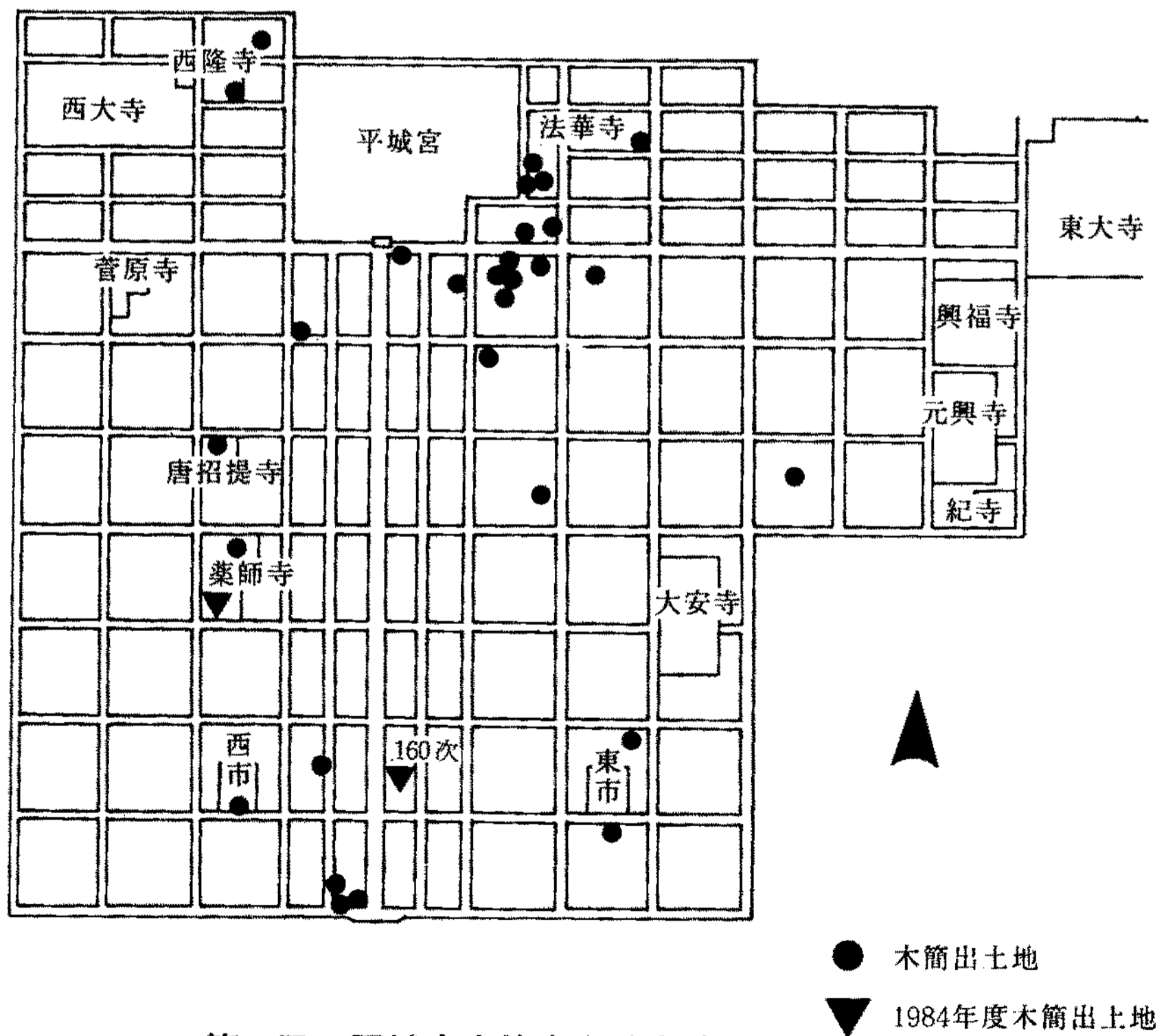
△ 墨書土器 ▽



| | |
|---|---------------------------------------|
| 第一六〇次調査 池状遺構SG三五〇〇 | 内大炊 内大炊秋人 味物料理 史生 女孺 秋 |
| 土壇SK三三〇〇〇 福入(三) 福 | 内大炊 内大炊秋人 味物料理 史生 女孺 秋 |
| 刀自女 逆 [] 逆 [] | 内大炊 内大炊秋人 味物料理 史生 女孺 秋 |
| 磁 (大) (二点) 五 (三点) 刀自女 福入 (二) (二) 神 以上上層 | 内大炊 内大炊秋人 味物料理 史生 女孺 秋 |
| 磁 (三) (点) 逆 (二) (点) 逆 [] 五 (三) (点) 刀自女 福入 (二) (点) 神 以上上層 | 内大炊 内大炊秋人 味物料理 史生 女孺 秋 |
| 五 (三) (点) 十 (五) (点) 武 (二) (点) 宅主 杯 淨 以上中層 以上下層 | 内大炊 内大炊秋人 味物料理 史生 女孺 秋 |



第1図 平城宮木簡出土地点略図



第2図 平城京木簡出土地点略図